

令和3年度9月補正予算 参 考 資 料

	頁	(補正予算資料) 頁
新型コロナウイルス感染症に対応するため、 引き続き医療提供体制を確保します	1	4, 5, 6, 7
愛知県農業総合試験場と大学・企業等の連携による 農業イノベーション創出に向けた調査を行います	2	9
『矢作川カーボンニュートラルプロジェクト』の 具体化に向けた検討を行います	3	11
交通事故を減らし、安全で快適な交通社会を目指します	4	14

とりまとめ
感染症対策局感染症対策課
感染症対策調整グループ
内線 5948・5977
(ダイヤル) 052-954-7466

新型コロナウイルス感染症に対応するため、 引き続き医療提供体制を確保します

予算額 9,528,899千円 (既決予算額 105,167,800千円→補正後 114,696,699千円)

1 医療提供体制の確保

- (1) 重点医療機関設備整備費補助金 2,404,610千円
(既決予算 840,000千円→補正後 3,244,610千円)
補助対象設備：超音波画像診断装置、CT撮影装置、
生体情報モニタ等
- (2) 救急・周産期・小児医療機関院内感染防止対策事業費補助金 847,656千円
補助対象設備：簡易陰圧装置、HEPA フィルター付空気清浄機、
個人防護具等

2 PCR検査体制の確保

- PCR検査機関設備整備費 716,041千円
(既決予算 689,852千円→補正後 1,405,893千円)
補助対象設備：次世代シーケンサー、
リアルタイムPCR装置等

3 医療機関に対する県独自の支援

- (1) 愛知県医療従事者応援金 4,563,000千円
(既決予算 4,726,000千円→補正後 9,289,000千円)
入院患者を受け入れる医療機関に対し独自の「応援金」を交付
患者1人あたり 軽症・中等症 100万円～重篤 400万円
- (2) 愛知県回復患者転院受入医療機関応援金 50,000千円
(既決予算 25,500千円→補正後 75,500千円)
回復患者を受け入れる医療機関に対し独自の「応援金」を交付
患者1人あたり 10万円

4 その他の事業

- (1) 感染症医療給付費 81,555千円
(既決予算 262,319千円→補正後 343,874千円)
新型コロナウイルス感染症の入院患者の医療費の本人負担分を公費で負担
- (2) 自宅療養者・宿泊療養者医療費補助金 34,519千円
(既決予算 11,091千円→補正後 45,610千円)
自宅療養者・宿泊療養者の医療費の本人負担分を公費で負担
- (3) 相談窓口設置事業費 831,518千円
(既決予算 988,060千円→補正後 1,819,578千円)
保健所設置市が行う相談窓口の設置、健康管理業務に対する支援

愛知県農業総合試験場と大学・企業等の連携による 農業イノベーション創出に向けた調査を行います

農業水産局農政部農業経営課
技術調整グループ
内線 3663・3666
(ダイヤルイン)052-954-6410

予算額 23,733千円(新規)

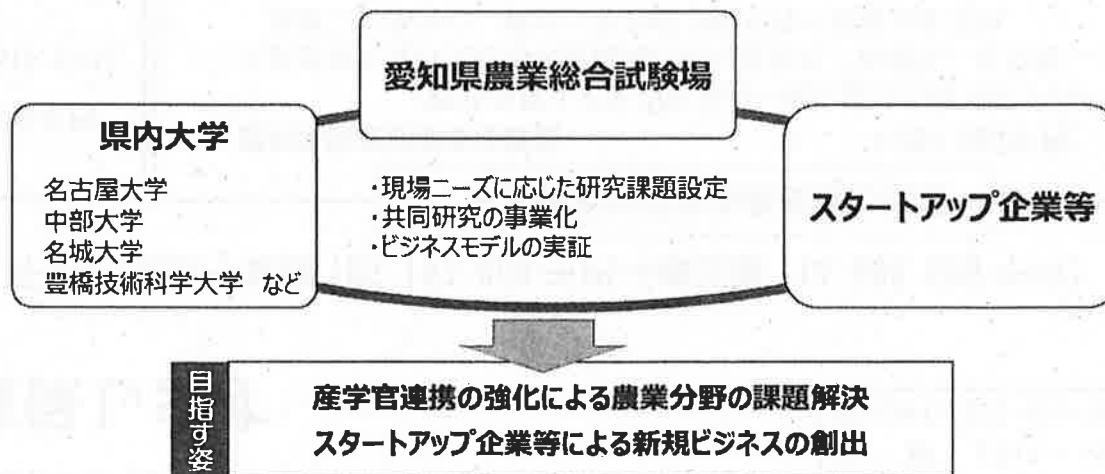
愛知県農業総合試験場と県内大学、新しいアイデアや先端技術を持つスタートアップ企業等との産学官連携の強化によって、新品種・新技術の開発を進めるとともに、カーボンニュートラルやコロナ禍に対応するサプライチェーンなど、農業分野の新たな課題に対応するための農業イノベーション創出に向けた調査を行います。

【調査期間】

2021年11月から2022年3月末まで

【調査内容】

- ① 共同研究テーマの設定
- ② スタートアップ企業等のシーズ調査
- ③ 共同研究を効率的に進めるための機能調査
- ④ 研究会を設置し、事業全体の推進体制等の検討



国・県の施策目標の達成に貢献

「あいちビジョン2030」(2020年11月策定: 県)

「食と緑の基本計画2025」(2020年12月策定: 県)

「みどりの食料システム戦略」(2021年5月策定: 農林水産省)

『矢作川カーボンニュートラルプロジェクト』の 具体化に向けた検討を行います

建設局土木部河川課
企画グループ
内線 2724・2725
(ダイヤル) 052-954-6553

予算額 30,000千円（新規）

矢作川カーボンニュートラル（CN）プロジェクトの取組の方向性を速やかに取りまとめ、具体的な施策として進めていくために、概略検討調査に着手します。

矢作川CNプロジェクト

【趣旨】

- 矢作川流域をモデルケースとし、“水循環”をキーワードに、再生可能エネルギー等の導入による国土強靱化をはじめ、森林保全・治水・水道からエネルギーまでを含め、官民連携で総合的かつ分野横断的にカーボンニュートラルの実現を目指す。
- 既存のシステムやしきたりにとらわれず、流域マネジメント、エネルギーマネジメントを重視して、AI や IoT といった最新鋭の技術を駆使し、二酸化炭素削減、省エネルギーそしてSDGs 達成につながる取組を進めていく。

【取組の概要】

- 1 治水対策
- 2 既存ダムの活用
- 3 森林保全
- 4 農業施設の活用
- 5 水道及び工業用水道施設
- 6 下水施設
- 7 分野横断的な対策

矢作川CNプロジェクト概略検討調査業務

【検討期間】

2021年10月末から2022年3月末まで

【検討概要】

- 矢作川流域のカーボンニュートラル実現の観点から、既存資料により課題を整理
- 課題に対し、カーボンニュートラル実現に向け検討分野ごとの対策案を検討
- 対策案実施に向けた課題を整理し、新技術導入や、PPP や PFI などによる民間の資金・創意工夫の活用を含めた事業化方針を検討
- 対策案を実施した場合の流域全体の二酸化炭素削減量を試算
- 矢作川流域のカーボンニュートラル実現に向けて推進していく取組の全体像を作成
- なお、検討に当たっては有識者及び国の関係省庁との意見交換を行いながら進める

今後の予定

- 本年度、矢作川 CN プロジェクト概略検討調査を実施する。
- 概略検討調査により取組の方向性がまとまった段階で、県関係部局、有識者及び国の関係省庁などからなる「研究会」を設立する。
- 来年度以降は、研究会を活用しながら検討を進め、官民連携で総合的かつ分野横断的なカーボンニュートラルの実現を目指した具体的な施策を取りまとめていく

交通死亡事故抑止に向けて、交通安全対策を強化します

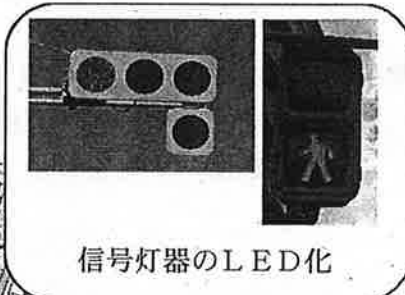
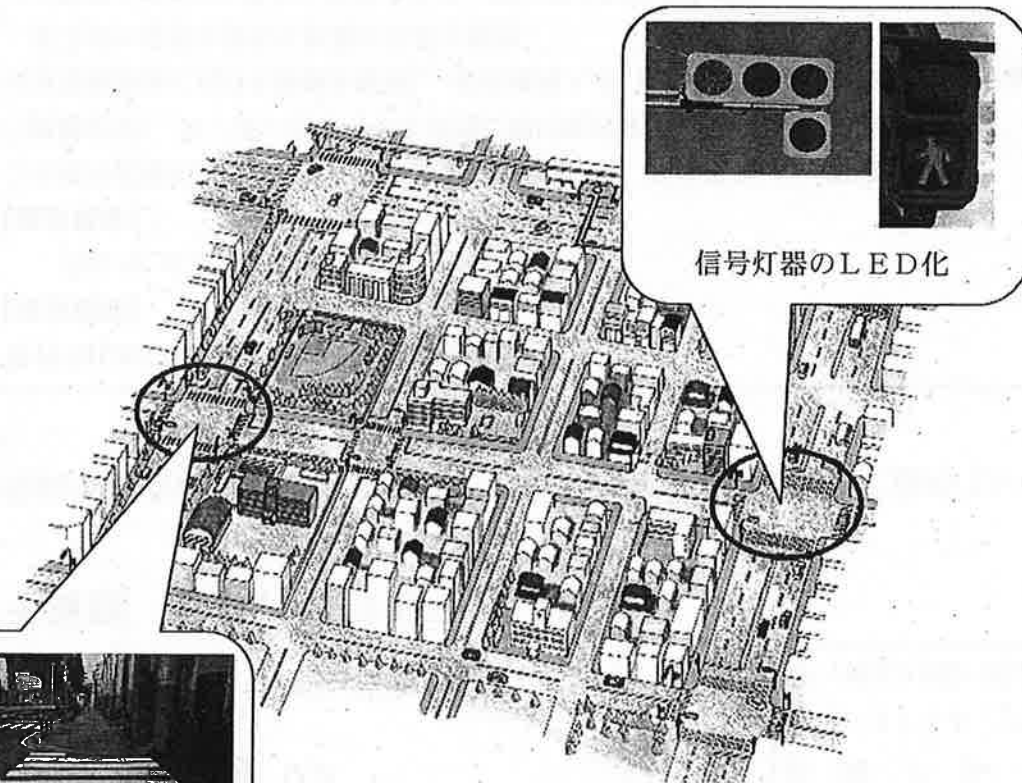
予算額 104,774千円

警察本部 交通規制課
(ダイヤル) 052-951-1611
内線 5161・5165

交通死亡事故の減少傾向を定着化させるため、交通事故多発交差点において、ドライバーや自転車利用者、歩行者の視認性を高め、交通事故抑止効果の高い信号灯器のLED化等の交通安全施設を緊急に整備し、交通安全対策を一層推進します。

交通安全施設の整備

- 信号灯器のLED化 385 本
- 道路標識の更新 695 本
- 道路標示の更新 75 km



信号灯器のLED化



道路標識、道路標示の更新



Stop Slow Smart

3つのSで交通事故抑止!